

## ワークハウス コムロード 事業報告

平成 30 年度の事業計画に基づき、以下の事業を行いました。

### (1) 利用状況と職員体制（平成 31 年 3 月 31 日）

ア 利用定員の充足

定員 20 名 現員 17 名（男性 9 名、女性 8 名）

イ 利用者の状況

(ア) 年齢構成

年齢	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均
男性	0	1	1	2	4	1	0	38.7
女性	0	0	3	3	2	0	0	33.7
計	0	1	4	5	6	1	0	36.2
%	0	5.9	23.5	29.4	35.3	5.9	0	100.0

(イ) 障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	未判定	計
男性	0	1	2	1	1	0	4	9
女性	0	0	2	1	0	0	5	8
計	0	1	4	2	1	0	9	17
%	0.0	5.9	23.5	11.8	5.9	0.0	52.9	100.0

(ウ) 精神障害者保健福祉手帳および療育手帳の所持状況

	精神障害者保健福祉手帳				計	療育手帳					計
	1級	2級	3級	なし		㊶	A	B	C	なし	
男性	0	3	1	5	9	0	0	3	2	4	9
女性	0	5	1	2	8	0	0	1	2	5	8
計	0	8	2	7	17	0	0	4	4	9	17
%	0.0	47.1	11.8	41.1	100.0	0.0	0.0	23.5	23.5	53.0	100.0

(エ) 利用の状況

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244日
延利用人数	81	92	103	105	130	112	152	159	144	144	189	212	1623人
利用率%	20.3	21.9	24.5	25.0	28.3	31.1	34.5	37.9	37.9	37.9	49.7	53.0	33.5%

ウ 利用率の向上

事業所開設以降、久喜市近隣市町村および障害者支援センターには利用 案

内ならびに広報の協力要請を継続しております。本年度は17名の体験利用と60名の見学があり、利用契約者は17名となりましたが、精神障害という障害特性から毎日通所することが難しく、利用率は年度末現在で53%です。

#### 職員体制

職 種	配置人数	備 考
管理者	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	1	法人内他事業所兼務
職業指導員	1	
目標工賃達成指導員	1	
運転員	1	法人内他事業所兼務
計	4	

## (2) 事業計画

ア 利用率の向上と収支の均衡を図る。

利用率80%の到達を目指しましたが、利用者3~4名で日中活動をしている場面を見学して、人が少ないことに不安を感じる方も多く、前半はなかなか契約に結び付きませんでした。後半は、契約人数が徐々に増えたことと、契約中の利用者の利用日数が増えたことで、少しずつ利用率が上がってきました。

イ 人材育成

研修参加状況

研 修 名	主 催	期日	場 所	参 加 者
触法者への支援	法人	10/29	久喜けいわ	岡本、大出、小田部
幹部職員研修	法人	10/31	久喜けいわ	岡本
アンガーマネジメント研修	あゆみ・ゆうあい	1/28	あゆみの郷	岡本、大出、小田部
主任・主査研修	法人	2/7	久喜けいわ	大出
虐待防止研修	法人	3/4	久喜けいわ	岡本、大出、小田部
労務管理研修	県社協	5/30	埼玉県農業共済会館	岡本
〃	〃	6/7	〃	〃
改正労働時間法制等詳細解説セミナー	吉池労務管理事務所	2/25	大宮ソニックシティ	〃
人材育成 ～中堅職員の意識改革から始めよう～	発障協 地域支援部会	7/23	すこやかプラザ	大出
障がい特性を理解した支援 ～社会に送り出すには～	発障協 通所事業部会	2/6	埼玉会館	小田部
焼き菓子の新商品開発と 販路拡大に関する勉強会	パレスホテル大宮	4/23	パレスホテル大宮	小田部

毎日の打合せや職員会議、ケース会議をとおして利用者各々への理解を深め、上記研修に参加して仕事への意識や知識、技術を養い支援にあたりました。

## ウ 支援体制の整備

事業所内での会議はもちろんのこと、利用者を良く知る支援センターや他の福祉サービス事業所や医療機関とも連携し情報を共有しながら支援を行いました。

## エ 利用者へのサービス

### (ア) 基本的な生活習慣

挨拶や健康についての簡単なマニュアルや既成のリーフレット等を掲示して自律を促しました。

### (イ) 生産活動

各々の能力に見合った作業に取り組めるように生産工程を細分化する、分かりやすい図や数値を掲示する等の工夫をしました。また、利用者同士の相性を考慮した作業グループを作り、作業中のトラブルの軽減を図りました。

本年度の工賃支払い状況は表のとおりで、平均工賃は、**20,022 円**／月となりました。

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支給額	28,217 円	35,642 円	37,509 円	38,736 円	52,262 円	41,392 円
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
59,833 円	64,681 円	54,172 円	57,173 円	308,041 円	1,945,849 円	2,723,507 円

### (ウ) 就労支援

本格的に取り組むべき時期にある対象者はいませんでした。就労準備の一環として就労支援センターの協力で 4 名を対象に、就職への心構えや過去の実例を勉強する会を開催しました。

### (エ) 余暇活動

ご本人自身で自由に楽しめる利用者が多いため季節行事は実施しませんでした。また、週末に開所しても参加者がいないので、平日の午前中のみ作業をして、午後に外食と他事業所見学をする機会を 2 回作ったところ好評でした。

### (オ) 健康管理

年 1 回の健康診断を実施しました。また、相談事や心配事がある利用者に対してはその都度話ができる機会を設けて、不安や混乱が大きくなるように対応しました。

## オ 地域交流

週末は休日と捉える利用者がほとんどで、地域行事が多く開催される土、日曜日に開所しても参加希望者がおらず職員のみで参加して事業所の広報活動をする結果になりました。

## カ 危機管理

(ア) 研修、自己点検、職員の相互確認等で、虐待の防止に努め、利用者と一緒に虐待について考える機会を設けました。

(イ) 避難訓練を 2 回実施し、備蓄の災害用物品については利用者と共に置き

場所や使用方法を確認しました。

- (ウ) 弁当作りという作業内容上火気や刃物を扱う場面が多く、収納場所の管理やけが防止のための作業工程に配慮したので、作業中に大きな事故はありませんでした。また、食中毒防止のための衛生管理にも注意を払いました。

職員が弁当の配食中に、公用車で人身事故を起こしました。配食のルートや、職員の運転業務の分担を見直し、事故の再発防止に努めました。

#### キ 生産活動の計画

- (ア) 弁当の製造販売

主として法人内の他事業所への販売を行い安定した売り上げを確保できましたが、調理作業担当を希望する利用者が少なく、職員の負担が大きいため見直しの検討を始めたところです。

- (イ) 農作物の生産

作業を希望する利用者が少なく、職員も現利用者に対する最低限の配置であり、農地に出向くことがなかなかできない状況で、時期を逸することも多く予定どおりには取り組むことができませんでした。

昨年度に引き続き、埼玉県が実施する障害者農業参入チャレンジ事業に参加し、埼玉県農林公社から技術指導と資材の提供を受け、玉ねぎの栽培に取り組みました。

- (ウ) 企業からの受託作業

利用者が徐々に増える中、新しい受託作業受注先を 2 件獲得し受注量も増えています。新規利用者は、受託作業のみの参加を希望される方が多く、今後もこの傾向は続くと思われれます。